

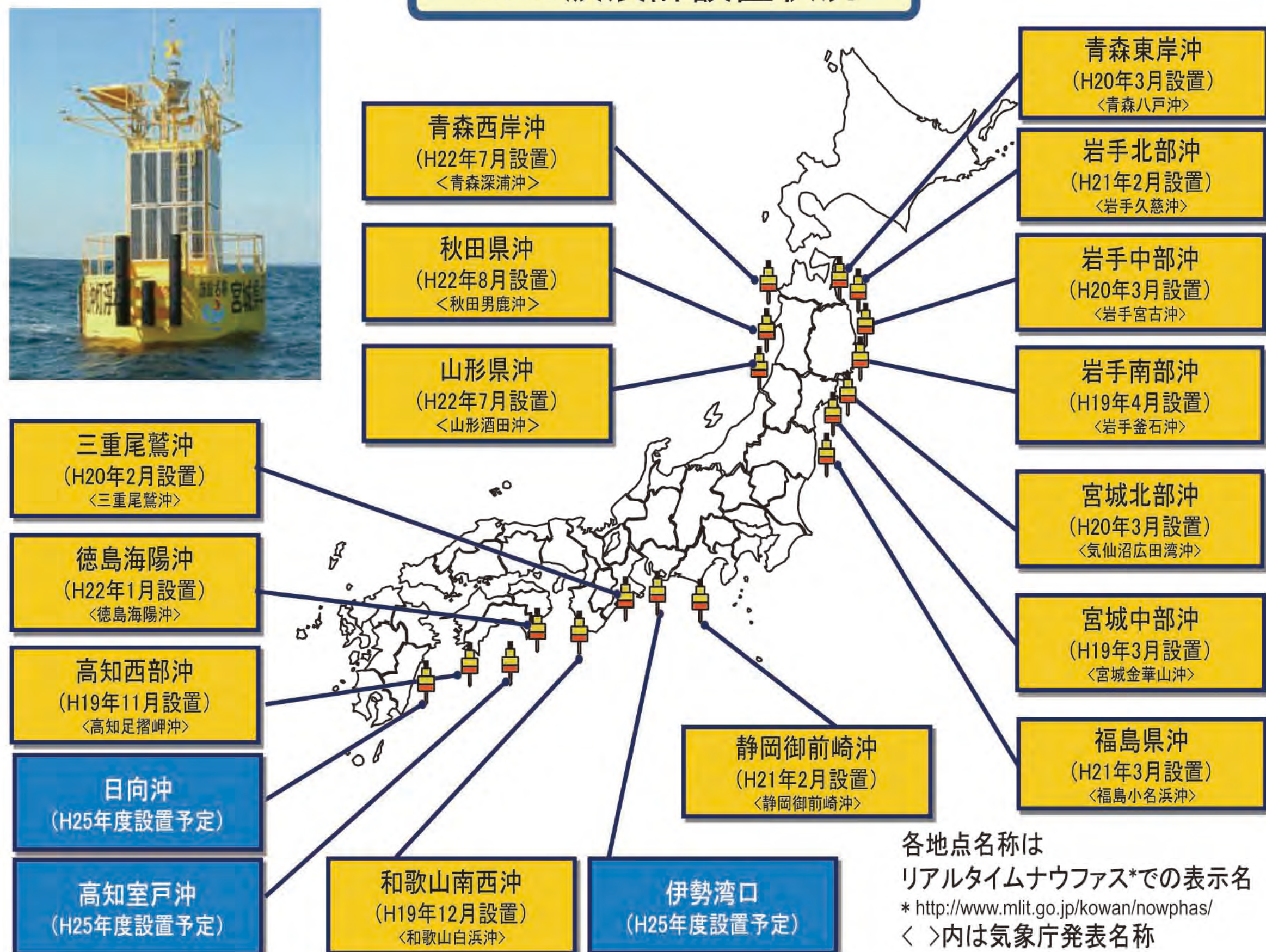
津波防災支援システム改良 〈GPS波浪計データの防災提供〉

東北沿岸において、GPS波浪計により港湾整備に必要な沖合波浪観測を実施しています。

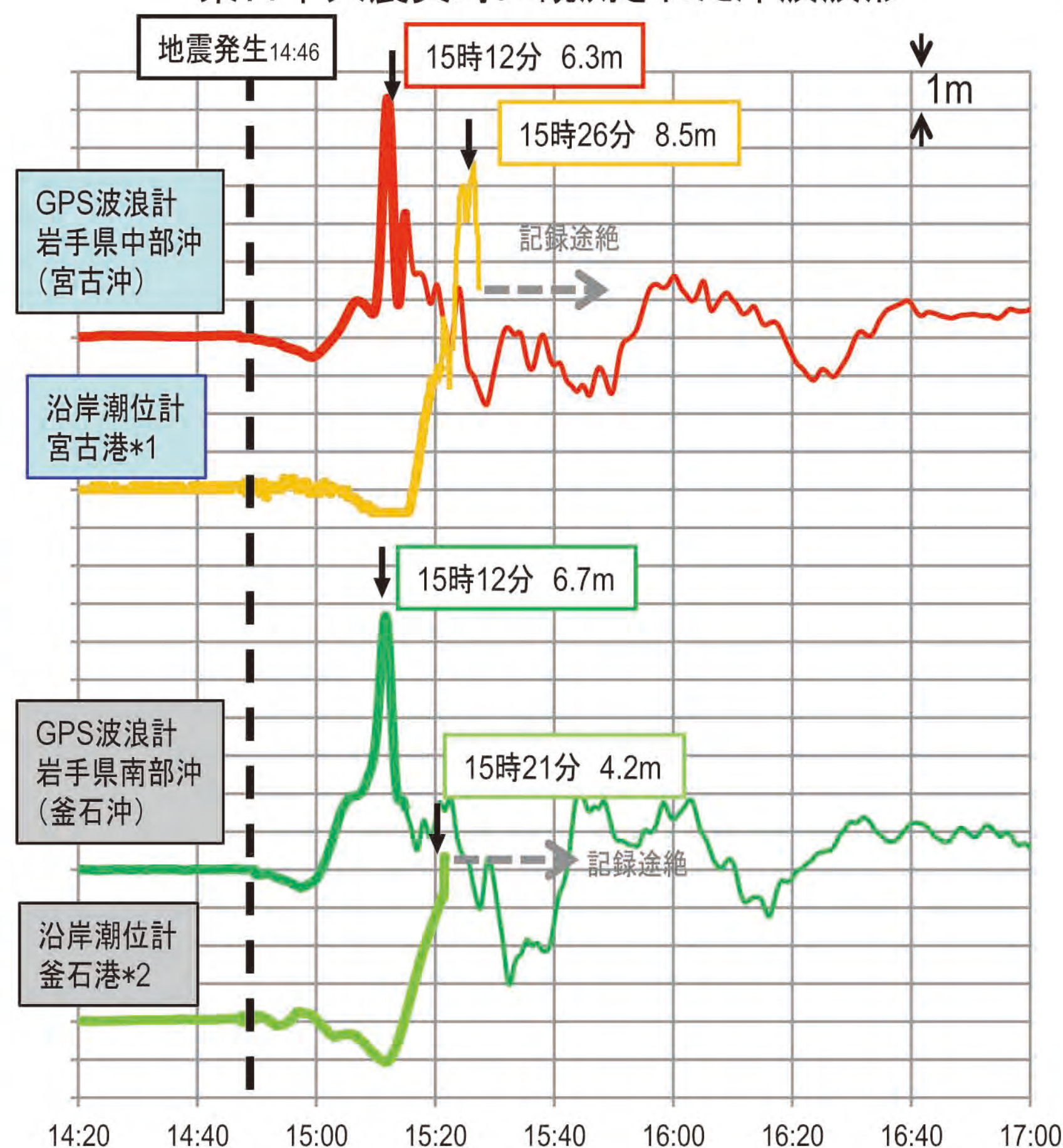
GPS波浪計は、地震発生時には津波の観測も可能であることから、気象庁等関係機関と連携することにより、港湾を含む沿岸域での津波への迅速な対応にも活用しています。

東日本大震災を踏まえ、GPS波浪計で得られた津波情報を迅速・確実に沿岸自治体へ提供できるように既存のシステムをさらに改良し、分かりやすいメール画面による自治体担当者への配信システムを構築するなど、地域防災へのデータ利活用の取り組みを推進しています。

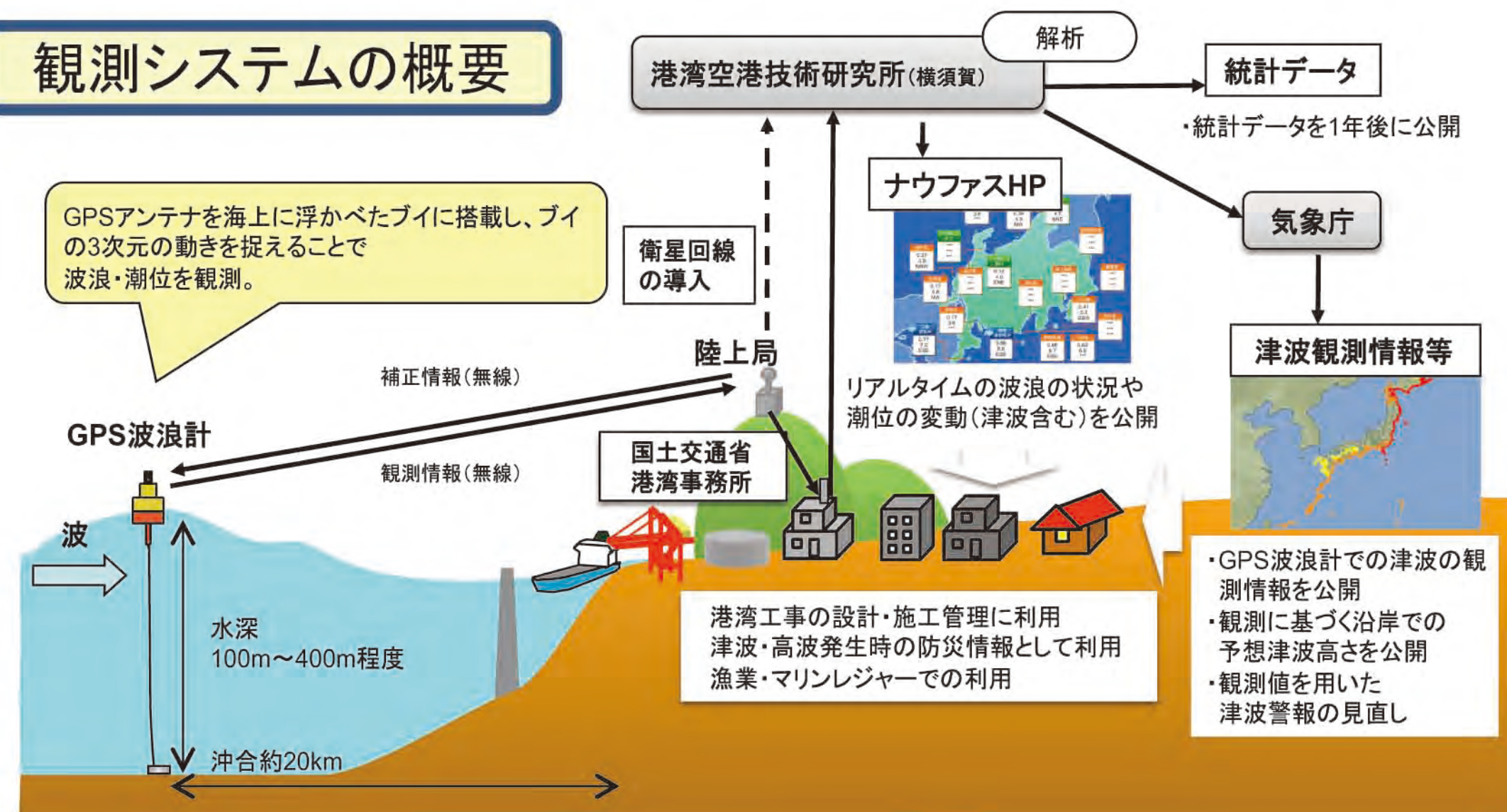
GPS波浪計設置状況



東日本大震災時に観測された津波波形



観測システムの概要



左図に示すように、GPS波浪計は、海岸から沖合約20kmの海域に設置しています。そのため津波が海岸に達する10分程度前に津波を観測することが出来ます。この約10分前の津波情報を沿岸自治体に配信できれば、必ず防災に役立つと考えています。

下図のように、メール画面を分かりやすく改良しました。

津波発生

津波防災支援システム

【沿岸市町村 災害対策本部】

津波を観測した場合は赤字表示。

自動的にポップアップ

【GPS波浪計】



約60秒

